

三条別院のご案内

三条別院に想う

最近是有縁の方々より、しつこく(?)お誘い
ただしていることもあり、法要に出仕したり、お
役をいただいたり、こうして原稿依頼をされたり
するようになった。それに伴い、職員の方々と一
緒にお話しさせてもらったり、お酒を「一緒にさ
せてもらったり、交流できる機会が増え、お顔が良
く見えるようになったというか、大変嬉しく感じ
ている。

忙しく走り回っている職員の皆さんを見るにつ
け、本当にこの身を省みさせられるような思いが
する。例えば、別院に勤務してくださる職員、そ
のお一人お一人は、私たち一人一人の願いにその
背中を押されて、油断なくお給仕してくださって
いるのだろう。そして、私たちもまた、そのよう
な想いや熱意に、わが身を省みるのだろう。

職員の皆さんは、しっかり別院のお給仕をして
もらわなきゃ困る。だが、その言葉を、他人事と
して言うのはいけない。職員もまた、私たちの
願いに背中押される立場であるからだ。もしも職
員が怠慢の時には、それは、私たちの責任でもあ

る。私たちは、きちんと彼らに「想い」
をかけていたのかと、深く内省せねば
ならない。

よく、本山、別院は、各お寺の見本で
ある、という受け止めを耳にする。い
つも綺麗に整えられている荘厳、様々
なカタチの集い、大きな刺激をうけることだ。そ
してそれは、「人」においても同じではないか。私
も、お寺では、「お寺様」などと言われる。当初は
それがむずがゆかった。しかし、今では、その意味
をしつかり受け止めなくてはと心変わりをしてい
る。なぜ、「お寺様」なのか。大事な道場としての、
儀式荘厳の場としての、私のお寺のお給仕を自分
の代わりに行っていたからである。場と
お役に対して頭が下がっておられるのだ。そして、
我々もまた、頭の下がっておられる姿に頭が下
がるのだ。

同じように、私たちは、別院職員を大事にして
いかななくてはならない。彼らは、大事な私の「ご
さまのお給仕にあたってくださっているのだから
彼らと私とは、共に背中を押しあい、促しあう関
係なのだから。

(第二十組 常明寺 窪 智至 氏)

〇次回の「三条別院に想う」は、

渡邊 学 氏(第二十三組 明正寺)より

「執筆いただきます」

■別院有志の会 観桜会を開催！

四月十三日(水)は幸いにも好天に恵まれ、三条
別院有志の会で観桜会を行いました。同朋会館で
鷲尾輪番の法話を聴聞した後、幼稚園の園庭の桜
の下で、夜桜を楽しみました。『御文』には酒・飯・
茶ばかりで盛り上がるだけではいけないというが
実際これがあると話はずむ」などと密かに囁か
れる中、もちろん仏法の話も尽きず、ざつとば
らんに別院の将来、有志の会の活動などについて
話しました。また、福島県からの被災者の家族を
御招待し、複雑な胸の内を色々と聞かせていた
きました。有志の会の知野吉雄さんは「雪椿相撲
甚句倶楽部」代表を務めておられ、東北地方名所
の甚句を披露して下さいました。以下、歌詞を掲
載させていただきます。

アーアーアー(アドスノイ ドスノイ)

宮城名所を甚句にとけばヨー

(アドスノイ ドスノイ)

アー萩の花咲く宮城野に

森の都の仙台の ホイ

伊達は六十二万石

みどり豊かな青葉城 ホイ

みちのく名物夏まつり

さかる人出のセタに

河鹿鈴ふる広瀬川 ホイ

日本三景松島に

唄で知られた石巻 ホイ

鯨汐吹く金華山

芭蕉が奥の細道は

いで湯も煙る鳴子町 ホイ

紅葉の秋保を見おろして

あれに名高い蔵王山 ホイ

林子平や長英と

相撲は横綱谷風に

丸山大砲秀の山 ホイ

今じゃ人気の ヨーホホイアー 両青葉ヨー

アードスコイ ドスコイ

東北地震津波に襲われて

あの船この道その家も

瓦礫の町に変わり果て

暮らしを支えた海の町

魚にワカメとカキ昆布 余震の続く避難所に

寒くて眠れぬ夜もすがら

固く誓いし再建へ宮城三陸石巻に

きつと来るきつと来るヨーアーア春が来るヨー



【甚句を披露する知野さん】

■御命日(二十八日)の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。どなたでもお参りいただけます。皆様の「ご参詣をお待ち申し上げております。」

なお、前日(二十七日)はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めをしております。

【五月二十八日(土)】

午前十時 お勤め(御命日 日中法要)

文類偈 行四句目下

◎今月の法話講師

斎藤 恵康 氏(第二十三組 廣泰寺)

念仏讃 洵五
和讃 回口 次第六首
回 向 願 以 此 功 徳

◇二〇一二年 法話講師一覽

- 六月 鳴澤 宏誓 氏(第十九組 長福寺)
- 七月 藤井 信彰 氏(第十四組 長楽寺)
- 八月 村山 まみ 氏(真宗学院第一期卒業生)
- 九月 井上 知法 氏(第十三組 願性寺)
- 十月 草間 朋哉 氏(第十二組 勝覺寺)
- 十一月 竹内 淳一 氏(三条教務所 主事)
- 十二月 関根 正隆 氏(第二三組 長徳寺)

■同朋会館に宿泊される方へお願い

同朋会館に宿泊される方は、同朋会館一階事務所にございます宿泊者帳に記帳していただき、シートクリーニング代としまして、五〇〇円いただいております。

また、翌朝七時より本堂にて晨朝が勤まりますので、お参りいただけますようお願い致します。

■別院奉仕研修について

先達の篤き御懇念によって護持されてきました三条別院にお越しいただき、その歴史に触れていただくとともに、現代の様々な問題を抱える私たちが、真宗門徒として親鸞聖人のみ教えに出遇うことを通じて、ともに語り合い、人間として生

きる意味を尋ねていく場となることを願い、奉仕研修会を開いてみませんか。

○日程及び内容については、「要望等」ございましたら「相談承ります。」

○奉仕研修会をお申し込みいただく方(団体)へ、冥加金としまして左記のとおり頂きます。

◎冥加金

- ・日帰り 一、五〇〇円
- ・一泊二日 二、五〇〇円

◎食事代(昼・夕食は業者発注のため)

- ・朝食代 五〇〇円
- ・昼食代 一、〇〇〇円程度
- ・夕食代 一、三〇〇円程度

■三条別院巡回について

かつて三条別院の御影をお迎えし、各ご門徒のお宅で聞法会が頻繁に行われておりました。しかし、時代の流れや、世代の交代で今では数えるほどこしか行われていません。

「ご門徒の皆様をはじめ有縁の方にご案内いただき、三条別院御影巡回がより多くの方々のお念仏をいただける場となる」ご縁となりますことを、願っております。

※曜日・時間等は昼夜問わず、皆様のお仕事の後など「相談させていただきます。」